

すべての原点が東医にある

長尾クリニック院長・東京医大高齢総合医学分野客員教授

長尾和宏（昭59卒）



東医を卒業してはや30年が経過した。学生時代は社会医学研究会で無医地区活動に没頭していた。人口800人の長野県下伊那郡浪合村でOBの応援を得ながら家庭訪問をしては減塩指導を行っていた。現在、在宅医療や予防医療に取り組み

の原点はすべてこの無医地区活動にある。また日野原重明先生をお招きしてはプライマリ・ケアの講演会を開催していたが、30年後にはプライマリ・ケアの医学書を編纂する立場になっていた。さら

に大学祭では終末期医療の勉強会をしていたが、30年後には一般財団法人日本尊厳死協会の副理事長職として全国を回る立場になっていた。つけ加

えるならば30年間、1日たりとも病気で休むこともなく働いたのは、準硬式野球部にお世話になったことと決して無縁ではない。

卒業と同時に帰阪し、大阪大学第2内科に入局して11年間医局人事で働いた。図らずも私学と国立の両方の医学部の良い所と悪い所を経験することができた。東医の良い所は、自由と多様性にあると思う。また学生時代には今一ピンとこなかった「自主自学」という言葉も、40歳を過ぎたあた

りから常に頭の中に焼き付いている。ウサギと亀ではないが、日々コツコツと努力し続けることで扉が開くことも実感した。

関西においても東京医大卒業生であることに誇りを持っている。講演等で全国を回ると大変有難いことに各地の医師会で頑張っておられる先輩の先生方に大きな力を戴いている。東京医大の将来は、我々の世代がどう頑張るにかかっているのだらう。年に1〜2回は応援団のエールを聞きながら校歌を歌うことも楽しんだ。しかしノスタルジーに浸るだけでなく、200周年を目指して（もう死んでいるが）精進を続けたい。東医万歳！